



# 存在である理由

ファッションストーリーを訪れたエッセイストの中野香織さん。スに魅力的な理由を分析、語っていただきました。



こちら、2007年の短期集中連載「今なお輝き続けるプリンスス ダイアナ妃という伝説」

没後10年のこの年、5号連続で行われた連載。英国文化に通じた中野さんならではの鋭い視点の分析で、読者から圧倒的支持を受けました。

## アイルランド人デザイナーとの絆



ポール・コストロ氏の服を着て、子どもと交流するダイアナ妃。「プリンセスさぼくはないテラードが気に入って、王子のお迎えや非公式な施設訪問などに彼の服をよく着たそうです」(中野さん)

## 酷評も受け止め 装いを研究



ウェディングドレスを手がけたエリザベス・エマニュエル作のコートドレス。ダイアナ妃の装いのなかでも、記念すべき酷評の装いに…。

博物館や個人収集家から借り受けた約25点が展示中(1)。「保存状態が良く、オークションで落札した人々の愛を感じます。彼女が住んでいたケンジントン宮殿(2)で行われているのも嬉しい」(中野さん)



## 没後20年記念の 衣装展を開催中



## 2017年、ロンドンで知ったダイアナ妃の2つのすこさ

没後20年記念の衣装展が行われている英国を訪れ、初めて知った真実が2つあります。一つは展覧会の学芸員から聞いた話で、ダイアナ妃はメディアに出るドレス評すべてに目を通し、批判や陰口も受け止め、次に生かすために研究した人だったということ。

1985年のイタリア訪問の際に着たタータンチェックのコートドレスが酷評を浴びたときも、冷静にすべての悪評に目を通したそう。その徹底した努力の結果、360度どの角度から見ても美しく、自分が引き立ち、そして一着一着に意味があり…と、本人とドレスが一体化するような数々の装いが生まれたのです。

もう一つは、ダイアナ妃が王子のお迎えなどプライベートで着る服をよくオーダーしていた、アイルランド人デザイナーのポール・コストロ氏から聞いた話です。当時、ケンジントン宮殿に注文を聞きに行く際、アイルランド人の彼と黒人のドライバーが中に入ろうとすると、周囲の人から露骨に嫌な顔をされたそうです。「でもダイアナ妃だけは温かく接してくれました。亡くなるまでクリスマスカードを欠かさずに送ってくれました」とコストロ氏。そして「彼女は偏見にまったく屈しない、ガッツのある人」だと強調していました。アイルランド人デザイナーとのこうしたエピソードは、イングランド人が監修した衣装展のガイドブックにはもちろん出てきません。誰に対しても分け隔てなく接するというダイアナ妃のパーソナリティは、さまざまな人生経験を積むなかで強く発揮されていきますが、実は初めから偏見に屈しない信念のある強い女性だったことがわかりました。

## ファッションやゴシップ以上に、生き方そのものが魅力的な女性

ダイアナ妃はさまざまな改革を起こした人です。彼女はロイヤルの必須アイテム、帽子や手袋をあまり身につけなかったのですが、それは赤ちゃんや病気で

マクドナルドでハンバーガーを食べ、遊園地で遊ぶ。王子として生まれた息子たちに、普通であることを教える、それもダイアナ妃が信念に従い王室の伝統を破って起こした改革。

## “普通”の親子らしい時間を



## 英国人が涙を流し その死を嘆いた



ダイアナ妃の葬儀にあたり、日頃冷静で憤まじやかなイギリス人が人目もばからず涙を流し、声を上げて泣きました。これこそが、本文中で中野さんが指摘する「イギリス人の感情をエモーショナルにした」彼女の功績を象徴する出来事でした。

## 没後10年目、成長した息子たちが…

2人の息子が企画して追悼のチャリティコンサートが行われた没後10年。「今は熱狂がジョージ王子たち新世代へ移りつつも、彼女のことは絶対忘れないという空気感」(中野さん)





お話・中野香織さん  
なかの・かおり ●エッセイスト、服飾史家。東京大学大学院修了、英国ケンブリッジ大学客員研究員を経て文筆家に。新聞などで連載記事を執筆。ファッション史から最新モードまで幅広く研究、イギリスとその文化にも詳しい。明治大学国際日本学部特任教授を務める。最新刊『紳士の名品50』（小学館）。

ダイアナ妃、没後10年の連載執筆・中野香織さんが語る

# 彼女がタイムレスな

6月、ロンドンのケンジントン宮殿で開催中の衣装展「ダイアナ：彼女のそこで初めて明らかになった真実を含め、改めて、ダイアナ妃がタイムレ

「慈善活動の際は、自らケアリング・ドレス（慈しみのドレス）と呼んだこのドレスを繰り返し着用。相手に直接触れるため半袖で手袋なし。気持ちを明るくする色柄、さらに子どもがおもちゃにできるネックレスを身につけて…」(中野さん)

## ファッションにも人道主義



11

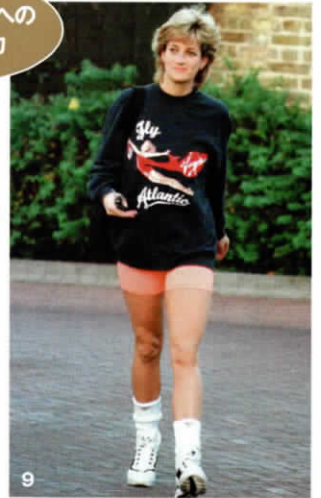


## 見られることへの意識と努力

ダサイと言われたいため、ファッションを徹底研究したダイアナ妃。「1990年代には本格的にワークアウトも始め、体形が変わることで、自信もどんどんついていったようです」(中野さん)

## ファッションで外交

自分が引き立つというだけでなく訪問国への敬意をファッションで表現したダイアナ妃。「86年の来日時には、日の丸を表現した“ライジング・サン・ドレス”を着用しました」(中野さん)



9

苦しむ人に直に触れたかったから。信念のためには王室の伝統を破ることを厭わない人でした。感情というものを見捨てたダイアナ妃は、感情をエモーショナルにしたのも彼女の功績です。というのも彼女は感情に素直で、思ったことを率直に言う女性でした。それによってバッシングもされましたが、結果、民衆の心を掴みました。率直にものを言うことは勇気がいりますが、それができる人こそがカリスマになりえるのです。今年、ウィリアム王子とヘンリー王子が、長い間、母の死について話すことができず、苦しんでいたことをカミングアウトしました。この王子たちの告白の率直さは、まさにダイアナ妃の影響です。

神話学者のジョセフ・キャンベル氏は、古今東西1000人のヒーローは皆、同じ人生をたどっていると分析しています。簡単に言うと、ヒーローは皆、不運な世界から旅立ち、一度死の深淵に落ちた後、人類を救う宝のようなものを得て元に戻った世界に戻るといふもので、彼はそれを「ヒーローズ・ジャーニー」あるいは「モノミス」という言葉で表現しています。ダイアナ妃はまさにモノミスに沿った生き方をした、そこに彼女が今も伝説的な存在である大きな理由があります。そしてヒロインであると同時に、夫に愛人がいたり、嫁ぎ先とうまくいかなかったり、プライベートを暴露されたりと、女性の普遍的な悩みを一通り経験していることも共感を得る理由でしょう。

ダイアナ妃は幼少期、母親が家を出て行ったことに傷つき、人に愛されたいという思いが強い女性でした。たぶん誰よりも人に愛されたい人だったはず。でも、ただ愛されたいと思うのではなく、自分が悲しいぶん、もっと弱い人に愛を分け与えてあげようとした。そして愛情を人に与えるほどに力が増し、結果的に世界中から愛情を受け取りました。

リアルタイムでダイアナ妃を知らない世代には、ファッションアイコン的な面や、もしくは恋愛のゴシップのほう知られているかもしれません。しかし彼女は、人間性そのものが革命的で魅力があり、生き方そのものが面白く、学べる人が多い人だったというのを強調したいと思っております。

## “シャイ・ダイ”から自信溢れる女性へ

「80年代前半はまだ初々しい“シャイ・ダイ”のイメージ(13)。それが'90年代には立派な自立した女性に(14)。「91年に髪を切り、フォトグラファーを雇い、戦略的にスタイリッシュになろうと努力を重ねた成果」(中野さん)

## 宿敵に幸福をもたらすことに？

「ダイアナ妃の死後、チャールズ皇太子の隣にカミラ夫人がいることを国民が許すようになったのも、ダイアナ妃がイギリス人の感情をエモーショナルにしたことが関係していると思います。皮肉なことですが」(中野さん)



4



13



12

# 結婚生活

最高の幸福がもたらした「不幸」

ダイアナ妃の魅力を、「結婚生活」「人間愛」「ファッションアイコン」という3つのキーワードでお届けします。

## 完璧な幸福と見えた結婚が地雷 その不幸がもたらした可能性の開花

1981年7月29日、バルコニーでキスを交わす

チャールズ皇太子とダイアナ妃。世界中がまばゆいロイヤルカップルを祝福し、不思議な一体感に包まれた「世紀の華燭の典」。しかしセントポール大聖堂での結婚式では、その後の二人を予兆するような、ささやかなスリッパがありました。ダイアナ妃が誓いの言葉のなかで、夫を愛し、慈しみ、従い…の「従う(オベイ)」を省略してしまったのです。緊張のあまり言い忘れただけなのかもしませんが、結局、ダイアナ妃の結婚生活ではオベイの色は薄いものに。結婚当初から夫とカミラ・パーカー・ボウルズのただならぬ関係を感じ取っていたダイアナ妃は、しきたりだらけの王室の生活にも疎外感を覚え、摂食障害をエスカレートさせて孤独な苦悩を深めていきます。その果て

に彼女が選んだ道は、皇太子から独立し、自分自身にオベイして生きること。'92年12月に別居を発表。メディアを巻き込む泥沼の闘いを経て、'96年8月、15年間の結婚は正式に解消されます。

興味深いのは、ダイアナ妃の秘めたる可能性が花開き始めるのが別居開始後であること。慈善活動に邁進し、強さと美しさと聖母のような慈愛で人々を魅了した彼女は、世界のスーパースターになります。地雷撲滅キャンペーンで訪れたサラエボで、地雷を踏んだ犠牲者が辛い記憶を話した際、「私の場合は1981年7月29日(この結婚の日)だったわ」と言っているのを笑いで包んだことも。パーフェクトな幸福と見えたものが実は地雷、でもその地雷がもたらした地獄こそが、自分自身を見つめ、眠れる可能性を開花させる機会になったのです。ダイアナ妃にとって結婚とは、世俗の不幸の基準などとはるかに超越した、壮絶で崇高な魂の旅であったのか…とも思えます。



1 '86年夏、別邸ハイグローヴでの一家4人。一見幸せそうな家族写真ですが、ここから約2年前、ヘンリー王子が生まれた直後には、すでに夫妻の関係は冷え切っていたといえます。2 世界中が目にした'81年7月のロイヤルウエディング。プリンセスの象徴のようなロマンティックなドレス。3 '85年8月、オーストラリア・ツアーでダンスを踊る二人。公の場ではまだ仲を取り繕う努力はしていたころ。4 '92年11月、二人揃っての最後の公式訪問の地、韓国で。もはやお互い、不機嫌さを隠しません。

# 人間愛

独自の慈善活動スタイル「ロイヤルタッチ」

2007年に中野香織さんが執筆された小誌連載「ダイアナ妃という伝説」を再編集。今、改めて知るべき

ダイアナ妃により現代によみがえった伝説、  
スチュアート家のロイヤルタッチ

慈善活動、人道的行為には多様なスタイルがありますが、ダイアナスタイルの際立った特徴はなんといっても「さわる」こと。「エイズはさわるだけで伝染する」というデマがとびかっていた'80年代半ば、ダイアナ妃はエイズ患者が横たわるベッドの上に座り、彼の手を握りしめました。世界中に報道されたこの写真は、エイズへの偏見を一掃するのに多大な貢献を果たしたのです。またダイアナ妃が抱きしめたり触れたりすることで、魔法のように病気が良くなったという証言も少なくありません。そこで思い出されるのが、スチュアート王家の血を引く王は、るいれき（頸部リンパ節結核）患者の患部に手を当てることで病から救う、と信じられてきたこと。実はダイアナ妃には、そのスチュアート王家の血が流れているのです。

しかし彼女にとって触れることは、ただ愛情を伝えることです。「私たちの時代の最悪の病は、多くの人が一度も愛されることがないことに苦しんでいること」と語り、病や孤独に苦しむ人々、親の愛を知らない子どもたちに触れることで愛を感じさせる。そんな祈りのようなロイヤルタッチを通して、ダイアナ妃は時代の病そのものを癒そうとしたようにも見えます。人々に触れるその姿が崇高な美しさをもって胸を打つのは、彼女こそ愛されないことに苦しんでいた人間のひとりだったと私たちが知るからです。夫の心は別の女性が占めていた。ほかの男性との恋愛に走っても裏切られた。占星術や心理療法にすがっても救いはなかった——。暗中模索の果て、心から血がにじみそうな苦闘の暁に自分で見つけたのは、人々を愛をもって癒すことで自分が愛され癒されるという道だったのです。だからこそダイアナ妃が弱者に向ける愛は、生半可ではなく強かったのだといえるでしょう。



5



8



7



6

5 '97年1月、地雷の多いアンゴラをBBCの取材チームを伴って訪問。地雷原を歩く姿を撮影させ、一気に世界の関心を集めることに成功。良くも悪くもマスコミの力を熟知した彼女ならではの影響力。6 '96年10月、エイズ患者を見舞うダイアナ妃。二人の息子を一緒に連れていくことも。7 '96年8月、パキスタンの病院でがんに苦しむ子どもを優しく抱きしめるこの写真は、彼女自身も好んだもの。8 '97年6月、尊敬するマザー・テレサを訪ねN.Y.の修道院へ。

スタイルではなく「物語」や「思い」を伝えるもの



1、2 '89年の香港訪問で着用したキャサリン・ウォーカーのドレスは通称「エルヴィス・ルック」。

7、8 亡くなる2カ月前の'97年6月、自らの衣装のオークションのガラにて。キャサリン・ウォーカーのミニマムなドレスは、大人の自信を見せつけるスタイル。



3、4 煌めく海緑色のキャサリン・ウォーカーのドレスは、'89年、オーストリアと英国で、2度着用。

5、6 '91年ブラジル訪問時のドレスもキャサリン・ウォーカー。鍛えたボディにワンショルダーが映えて。



11、12 '96年10月、Hエイズ患者の家を訪問。スポーツマンを務めるレッドリボンキャンペーンにちなみ、赤のスーツを着用。



決まりきったスタイルがなかったからこそダイアナ妃の着た服は彼女の人生そのもの

英国女王は、公の場に出るときに着る服を、お芝居の小道具という意味の「プロップ」と呼びます。なぜなら王室メンバーに求められるのは、演劇的な役割。装いはファッショニステートメントであってはなりません。エリザベス女王には、そんな揺るぎなきロイヤルスタイルが見てとれます。ロイヤルではありませんが、ジャクリン・ケネディも、ファーストレディとして求められる役割を果たしつつ、ファッショニリーターとして世界中の女性から模倣される「ジャッキースタイル」がありました。しかしダイアナ妃は、典型的なロイヤルスタイルの実践者ではないし、筋の通った「ダイアナスタイル」があるかといえは、そうでもありません。時には失敗しながら、あらゆるテイストに果敢に挑み続けました。けれど、その装いは常に何かを伝え、そのときの彼女を面白いほど語っています。



9、10 '87年5月、カンヌ映画祭にチャールズ皇太子と登場。キャサリン・ウォーカーのドレスを着こなしたダイアナ妃ばかりに注目が集まって…。



愛したジュエリーとアレンジの仕方  
ロイヤルならではの華麗なジュエリー。違いも印象的。エリザベス女王から結婚祝いに贈られたケンブリッジラバース・ノット・ティアラ(23)。サファイアの婚約指輪(24)はキャサリン妃が継承。また、ジュエリーを自由につけこなす先駆者でも、'86年に来日した際には、鳥丸重雪のドレスに合わせてサファイアのチヨーカー(25)をヘッドバンド風に(26)。エリザベス皇太后からの婚約プレゼントはサファイアと真珠のチヨーカー(26)にリフォーム。ほかにもパールを背中に垂らすアレンジも話題に(27)。

ダイアナ妃を知る

keyword

# ファッションアイコン



19, 20 '88年11月、アニメ映画のチャリティイベント。子どもたちのために優しい色を選択?



19

20



16



15

15, 16 ロマンティックかつアヴァンギャルドなザンドラ・ローズも好きなデザイナーの一人。'87年6月、ロンドンにて。



14

13, 14 生来、妖精のようなドレスが大好き。エリザベス・エマニュエルのこのドレスも何度が着用。



13



18



17

17, 18 '94年パリ、'97年雑誌の撮影などで着たキャサリン・ウォーカー。別居発表後は、鍛えたボディをセクシーに見せるものが圧倒的に増加。



22



21

21, 22 '85年、ジョン・トラボルタと踊ったドレス。舞踏会用に、踊ったとき、裾が効果的に広がるよう巧みにデザイン。

す。だから、結婚前から亡くなるまでの彼女の写真  
を年代順に並べると、波瀾に富んだ「女の一生」のド  
ラマができあがります。ダイアナ妃は、ファッション  
を通してコミュニケーションできた女性。「物語」や「思  
い」を伝えるダイアナ妃のファッションはそれゆえ、  
見る人の目ばかりでなく、心にもまで焼きついたので  
す。  
例えば海外を訪問するときは、訪問国への敬意を  
ファッションで表し、慈善活動に携わるときは、相手  
とのコミュニケーションを意識して選びます。かと思  
えば、彼女の意図の有無にかかわらず、ファッション  
が「物語」を伝えてしまう場合も少なくありません。  
最も象徴的なのは、チャールズ皇太子がテレビで自ら  
の不倫を告白する番組が放映される夜の装い。ダイア  
ナ妃は、グラマラスな黒いオフショルダーのカクテル  
ドレスを着て颯爽と夕食会に登場します。しかも何も  
恐れないといった余裕の微笑をたたえて。翌朝、全新  
聞の一面を飾ったのはダイアナ妃で、不倫告白の皇太  
子は小さく扱われたのみ。ダイアナ妃をこの夜のウイ  
ンザー戦争において勝利に導き、ひとりの女性の自  
立をまぶしく印象つけたそのドレスは「リベンジドレ  
ス」とひそかに命名され、ダイアナ妃の転機を鮮やかに  
伝えました。ダイアナ妃の着た服のひとつひとつが  
彼女の人生を物語り、私たちを魅了し続けるのです。

ブランド小物遣いで  
ロイヤルスタイルに新風

キャサリン・ウォーカーをはじめ英  
国ブランドを積極的に着用し、世界に  
広めるスポーツクスマンの役割を果た  
したダイアナ妃。けれど離婚を機に、  
他国のハイブランドにも積極的にト  
ライ。ドレスではヴェルサーチを着  
こなすグラマラスな姿が印象的だ  
したが、特に多彩だったのが小物遣い。  
デイオールのレディバッグとコンミ  
ー(29)の愛用は有名ですが、グッ  
チ(30)やシャネル(31)のバッグも、  
96年創立のジミー・チュウ(32)の靴  
を翌年に履くなど先見の明も。



で振り返る

# 輝いた瞬間

となった写真を中心に、彼女の魅力や功績を伝える写真をセスがいたことを、永久に記憶にとどめておくために！



## 愛する息子たちとスキー休暇を満喫

冬のヴァケーションは毎年のように息子たちをスイスやオーストリアに連れていき、スキーを楽しんでいました。写真は'91年4月、オーストリアのスキー場で。



2

## ガラスの馬車に乗ったザ・プリンセス

1981年11月。3カ月前の結婚式と同じ馬車で、初めて国会開会に向かいます。ティアラに真っ白なファーのコートという憧れの姿は、まさに夢のプリンセス。



3

## 世界一の幸福な花嫁を確信していた私…

'81年5月。当時、世界で最も結婚したい独身男性だったチャールズ皇太子にプロポーズされ、夢心地のころ。本当は大の苦手なカントリー生活の象徴、バルモラル城での公式フォト撮影も嬉しそう。

## 皇太子妃として大仕事を遂げました！

結婚の翌年、めでたく未来の英国王を産出。'82年8月、ウィリアム王子の洗礼式での記念撮影は、主役の母である彼女が、エリザベス女王やフィリップ殿下、さらには皇太后をも従えて座の中心に！



4



5

## ダイアナ妃の革新の一つ、生後9カ月の王子を外遊へ

'83年4月。王子を伴ってオーストラリア・ニュージーランド訪問に出發。生後間もない王子は乳母と一緒に留守番、という王室の伝統を破って、母としての強い信念を見せつけました。



7

## この二人の成長が何より楽しみでした

'85年10月、住まいのケンジントン宮殿にて。ピアノの連弾(?)中の兄弟を前に誇らしげな笑顔のダイアナ妃。今生きていれば、同年頃の二人の孫のお祖母ちゃまとして、同じようにしていたかも。

## ジョン・トラボルタとの有名なシーンに新事実?

'85年11月、ホワイトハウスのガラでジョン・トラボルタと踊る有名な場面。本当はミハイル・バリシニコフと踊りたがっていたと、最近アメリカのABCで放映された番組で執事が告白しました…。



6



# 色褪せない魅力をメモリアル・フォト ダイアナ妃が

ダイアナ妃没後20年特集、最後は、世界的に話題セレクトしました。かつて、こんなにも素敵なプリン



**名門貴族出身ならではの、見事なカーテシー!**

'86年、'90年、'95年と、3度来日を果たしたダイアナ妃。最後となる'95年は2月にひとりで、英国赤十字の副総裁としての来日でした。天皇陛下へのカーテシーの美しさは、さすがです。

**これぞリベンジドレス。見よ、自信に満ちた姿!**

'94年6月、P.197の本文で出てきたリベンジドレス(デザイナーはクリスティーナ・スタンボリアン)を着用したダイアナ妃。圧倒的なオーラで世間の目を釘づけに。

**京都・二条城のガーデンパーティで**

'86年の初来日時。友禅作家・羽田登喜男氏の振袖、2000万円相当(当時)を贈られ、その場で羽織って笑顔のダイアナ妃。振袖は金髪の彼女に似合うよう、珊瑚色に松竹梅と鶴を圖案化。



**偏見なく人に接する  
ヒーローズ・プリンセス**

'91年4月、ブラジルの病院でエイズ患者と握手。触れるだけでうつるといわれていたエイズへの偏見払拭のため、各地で患者と握手。その写真が世界中に配信されたことは大きな功績の一つです。



**可愛らしい  
カントリースタイルも**

'86年7月。好きな都会のパレスを離れ、夫や子どものためハイグロヴでカントリーライフ。陰では葛藤があっても、このスマイル。

**プリンセススマイルで  
人々を癒して…**

'97年1月、アンゴラで、地雷で障害を負った地元青年たちとの写真。彼女が最も気負わず、リラックスした表情を見せたのは、愛を与え、与えられた、人々との触れ合いの場だったかもしれません。



**数々の王室の伝統破り。  
強い信念の人でした**

'89年6月。ノッティングヒルにある名門ブリススクール、ウェザビー校に通う王子たち(ヘンリー王子は初日)に付き添う嬉しそうな母。幼い王子は宮殿内で教育をという伝統に対し、お歴々を説得の成果。

